

血液製剤 web 発注導入へ向けての検討について

○輸血科 野口晋吾

臨床検査科 藤井広美 福江道代 星野成美 大石静 倉重康彦

【目的】福岡県における各医療機関で同種血輸血を実施する場合、血液製剤は福岡県赤十字血液センター（以下、日赤）へ発注し、供給される仕組みが一般的である。これまで当院では、FAX を用いて発注を実施していたが、2021 年 9 月、日赤よりインターネットを利用した血液製剤発注システム（以下、システム）の紹介を受けた。システムの利用依頼、また、2023 年 12 月 31 日までタブレット端末のレンタルが可能である事や web と FAX の併用も可能であるとの内容であった。そのため昨今のデジタル化への移行等を鑑み web 発注導入へ向けた運用方法を検討したため報告する。

【方法】web 発注に必要な e メール受信可能な端末は、日赤よりレンタルした。試験運用期間は 2021 年 9 月末日から 10 月末日までの 1 ケ月間とした。対象者を日常業務にて輸血検査を主に担当する臨床検査技師 5 名とし、FAX 発注と比較してメリットとデメリットを対象者から聞き取り、デメリットについては試験運用期間中に改善を重ねた。

【結果】メリットは主に次の 3 点が挙げられた。①発注完了確認作業の簡素化②ペーパーレス化③血液製剤の血液型抗原検索が可能となり、臨床的意義のある不規則抗体が検出された際にスムーズに製剤の選択が可能となった。

デメリットは、主に次の 5 点が挙げられたが、①～④においては解決若しくは改善を認めた。①システムへのログイン時に、ID やパスワードの入力に手間を要したが、ID やパスワードを記憶させる機能を利用する様に変更した事により、以降のログインが非常にスムーズになった。②日赤にて取り扱っている血液製剤は種類や規格が非常に多く、システムの初期設定では、その全てが選択可能となっており、血液製剤の発注に手間を要し、誤発注の可能性があると考えた。そのため、システムでは、よく使う血液製剤のみ選択出来るように設定を変更する事が出来る為、当院にてよく使う血液製剤のみ選択出来るように設定を変更し、誤発注する可能性を低くした。③web 発注では受注受付完了後の知らせが e メールとなる為、納品待ちの製剤の有無や内容が分かりづらく、不要な製剤の発注をしてしまう恐れがあると考えた。そのため、発注内容が分かる様に専用の掲示板を作成し、e メール確認後にその掲示板に発注内容を記入し、管理する事により、納品待ちの製剤の有無や内容が一目で分かるようにした。④FAX 発注と比較すると web 発注の方が手間を要するとの意見があったため、緊急時や時間外では FAX を用いるなど、その時の状況に応じて FAX か web かを選択する事とした。⑤通信環境が悪く、発注作業を行う場所に制限があった。情報システム室に相談したが、セキュリティの面より臨床検査科内の無線 LAN は、当院が購入した端末のみの利用と規定があるため改善が出来なかった。以上の結果より web 発注のメリットがデメリットを上回るため、臨床検査科ミーティングにて web 発注の導入を提案し、承諾を得て、2021 年 11 月より本採用となった。

【考察】当初は、タブレット端末での発注に戸惑っていたが、マニュアル作成やデメリットの改善を重ねた事で、導入後、大きな問題なく運用が出来ている。今後は、タブレット端末の購入も含め、通信環境を整え、web 発注単独でも迅速に血液製剤を患者様に供給出来る様に努めていきたいと考える。